OCCH

No.27　2004.3.31

（財）大阪府文化財センター

Osaka Center For Cultural Heritage

最古の土師器（写真提供 弥生博）

甕形土器の語るもの

考古学と実年代

研究発表会

弥生文化博物館にて　　日本民家集落博物館にて

「シリーズここまでわかった考古学」展示風景と研究発表会

もくじ

P．2　• シリーズここまでわかった考古学
• 池島・福万寺遺跡調査成果展示会開催！
• 金関理事の大阪文化賞等受賞祝賀会

P．3　• 第48回大阪府埋蔵文化財研究会
• 池島・福万寺遺跡で職場体験学習
• 韓国の考古研究者が来訪
• 共同研究

P．4　• 平成15年度下半期現地説明会・現地公開
上私部遺跡・有池遺跡（その2•3）現地公開
太秦遺跡・奥山遺跡現地公開
大坂城跡現地説明会

P．5　• 平成15年度下半期現地説明会・現地公開
南部調査事務所管内
• トピックス
＊はざみ山遺跡出土の陶硯について

P．6　• 平成15年度文化財講座
• ミニ講座の実施
• 第14回考古学国際交流研究会

P．7　• 郷土の文化財を見学する会
• バスツアー吉備路を行く
• 民家ツアー・史跡ツアー
• 正月の飾り―日本民家集落博物館を見学して―

P．8　• 弥生文化博物館 春の催しご案内
• 近つ飛鳥博物館 春の催しご案内
• 日本民家集落博物館 催しご案内（4～7月）

http://www.occh.or.jp

シリーズ ここまでわかった考古学

平成７年度から８年間開催した「発掘速報展　大阪」を引継ぎ、今年度は調査研究成果に沿った、小規模なテーマ展示として、「シリーズ　ここまでわかった考古学」という共通タイトルのもとに職員から提案された３つの展示を、会場となった各博物館と共催で行った。弥生文化博物館で２つ、日本民家集落博物館で１つである。

弥生博では、難波宮跡出土の「戊申年」銘木簡を中心に考古学と実年代に関する研究の現在の到達点を紹介する『考古学と実年代―考古学が歴史を変える―』と、古墳時代の始まりを考える際の基準資料となる土器を一堂に集めた『最古の土師器―庄内式土器の誕生―』の２つの展示を特別展示室で３月13日(土)～28日(日)迄同時に開催。

古墳時代以降出現する竈形土器は、集落で出土する実用品と古墳の横穴式石室の副葬品や水辺の祭祀関連品として出土する小型品等がある。民家博では、これらを一堂に集めた『竈形土器の語るもの』という展示を３月20日(土)～４月４日(日)、カルチュアはっとりで開催。２館ともに会期内行事として鼎談、研究発表会、講演会を行った。

会期内行事　午後２時～４時

３月14日（日）

鼎談「考古学と実年代―年代を測る方法―」

奈良文化財研究所 古環境研究室長　光谷拓実氏

芦屋市教育委員会 係長　森岡秀人氏

当センター 班長　江浦　洋

３月21日（日）

研究発表会

「最古の土師器」　当センター 技師　西村　歩

「庄内式甕の誕生」 当センター 技師　杉本厚典

３月28日（日）

講演と研究発表会

「竈形土器とまじなひ」 当センター 理事長　水野正好

「竈形土器とくらし」 当センター 主任技師　合田幸美

今回の展示はどちらかというと専門性の高い展示となったが、関心を持つ方々のメモをとる姿がよくみられた。また、春休みで子供達も見受けられた。弥生博の鼎談・研究発表会ともに170名の参加があり１階ホールが満員になる程であった。また、民家博カルチュアはっとりは定員が40名の小会場であるが、展示と講演・研究発表を満喫していただけた。

鼎談風景（左から光谷氏・森岡氏・江浦班長）

池島・福万寺遺跡調査成果展示会開催!

3月13日（土）東大阪市池島町の公民館で「クローズアップ！古墳時代の池島・福万寺遺跡」を開催した。この展示会は、過去の農業技術とその変化を探求してきた遺跡として著名な池島・福万寺遺跡の歴史のなか唯一集落が営まれた「古墳時代」に焦点を当てた。遺物は、古墳時代の遺構の変遷に沿って、鏡等の金属製品のほか土器、他地域から搬入された外来系土器など含めて網羅的に展示した。当日は、周辺住民の方々をはじめ178名の方々に来場していただき、展示会は盛況のうちに終了した。　（廣瀬時習）

展示解説風景

金関理事の大阪文化賞等受賞祝賀会

当センター理事で大阪府立弥生文化博物館の金関　恕館長の2003年度大阪文化賞と地域文化功労者表彰受賞をお祝いする会が、2月14日に約200人の参加を得て、大阪市内のホテルで行われた。

令息の環氏による、クライスラーの「昔の友」の演奏で始まった祝賀会、謝辞を述べられた金関氏は、ご自分が学問上で大きな影響を受けた師と先輩として、梅原末治、小林行雄、坪井清足氏について語られ、祝賀会に集った人々も「昔の友」として永く記憶したいと結ばれた。祝賀会を記念して、『弥生の習俗と宗教』が刊行された。

ご挨拶に耳を傾けられる金関ご夫妻（写真提供　弥生博）

第48回大阪府埋蔵文化財研究会

平成16年３月６日（土）に第48回大阪府埋蔵文化財研究会を開催しました。

今回のテーマは「大阪府内の古代、中世の民間信仰に関する発掘調査成果及び記念講演」です。６本の研究発表と２本の記念講演を行いました。

この内、古代に関する発表が４本、中世に関する発表が１本、両方に属する発表が１本です。

当センターでは、昨年、寝屋川市の讃良郡条里遺跡で、絵馬、人面墨書土器、人形などの古代祭祀関係遺物が多量に出土しました。これが注目を集め、文化庁主催の『発掘された日本列島2003－新発見考古速報展－』にも出品し、全国の博物館を巡回したことは、ご存知の方もおられるかと思います。

そこで、当遺跡の紹介と研究成果の公表をもとに、最近の祭祀関係の発掘調査や整理が進んでいる遺跡をとりあげ、研究会のプログラムを組んでみました。

また、当センター水野理事長は日本の宗教考古学の第一人者でもありますので、この機会に講演していただき、見聞を広め、知識の整理をはかろうと考えました。

肌寒い天候のもとで行われた研究会でしたが、大阪市内の中心部にある交通の便がよい、名前も良く知られた博物館の講堂が利用できたことや、水野理事長や大阪府教育委員会堀江門也氏の講演に興味をもたれた方が多かったことも関係し、総勢160人程の参加者となりました。参加者数は多くても100人前後であろうと考えていた予想をはるかに上回り、うれしい悲鳴をあげました。

いずれの研究発表も、調査や整理が進んでいることもあり、内容の深いものばかりでした。

今年度で大阪府教育委員会を定年退職される堀江門也氏には「大阪府で私が行ってきた発掘調査」の題で講演をお願いしましたが、自発的に今回の研究会のテーマにあわせていただき、カマドの祭祀に関係する一須賀古墳群の調査を中心に講演されました。

堀江氏の暖かい人柄がにじみ出る話しぶりで、最後は感極まり声が上ずられる場面もみられ、ほのぼのとした感慨深い講演になりました。

講演される堀江門也氏

池島・福万寺遺跡で職場体験学習

平成15年11月19、20の両日にわたって、東大阪市立石切中学校の男子生徒10名が担任の付添いのもと、東大阪市立縄手中学校の女子生徒１名（18日より職場体験で来所）と職場体験学習を福万寺の発掘現場で行いました。

１日目は、遺構の白線引きから入り、初めての経験ということで一生懸命でした。手ガリを使っての断面検出や遺構の検出作業になりますと、埋土の色や土質の違いを見分けるのが難しいらしく、集中できない生徒も出てきました。昼食後は、航空測量が行われるということで、わくわくしながら空を見上げて撮影の様子を見ていました。午後からは、平板測量の仕方をひとり一人がアリダードを覗きながら指導を受け、次に、人や動物の足跡と思われる所の砂をスプーンで興味深そうに取り除いていました。その後、深く掘られた黒い縄文地層の発掘現場へ行き、はっきりと判る猪や縄文人の足跡を見て感動した様子で話に耳を傾け、分室へ戻って反省文を書き、一日目を終わりました。

２日目は、Ａ、Ｂ班に別れて、ひとつの班は土器洗浄と注記を池島の現場事務所で体験し、もうひとつの班は遺物復元を池島分室で体験し、午後からは交替しました。おしゃべりも少なく、それぞれが作業に熱心に取り組んでいましたが、とりわけ注記の小さな字をきれいに書くことに集中している姿はなかなかのものでした。　　（山岡平和）

韓国の考古研究者が来訪

昨年の11月27日と12月2日、（財）大阪市文化財協会の招きで来阪中の、韓国嶺南文化財研究院の河眞鎬、禹承希、朴達錫の３氏が、当センターが発掘調査中の大坂城跡と八尾南遺跡を見学に訪れた。嶺南文化財研究院は、近年調査件数が増大し、発掘規模も大きくなった韓国において、こうした現状に対応するべく創立された調査研究団体である。当センターとの間でも、これまでに交流をもっている。３氏は、当センターの発掘方法や、技術に強い関心をだき、熱心に質問されていた由である。

共 同 研 究

当センターと日本民家集落博物館・大阪府立弥生文化博物館・同近つ飛鳥博物館の間で2002年度に行った共同研究の成果報告書（論文集）が発刊のはこびとなった。Ａ４判・324頁からなり、当センター・３博物館の職員と外部研究者計21名が執筆している。

また、2003年度の共同研究が現在進行中で、これの成果報告書は2004年度末に刊行される予定である。

こうした共同研究活動は、調査研究や、博物館展示のレベルを一層高めるものと期待されている。

平成15年度下半期現地説明会・現地公開

上私部遺跡・有池遺跡（その２・３）現地公開

平成15年12月６日、交野市に所在する上私部遺跡・有池遺跡（その２・３）で、現地公開を実施した。第二京阪道路（大阪北道路）建設に伴う発掘調査で、同年夏より調査を開始している。

上私部遺跡では、古墳時代後期の竪穴住居・掘立柱建物を多数検出して、上私部地区における古墳時代の集落の実態が初めて明らかになった。また、有池遺跡では方形にめぐる溝（濠）によって区画された中世の屋敷地を検出した。屋敷地の中では、掘立柱建物群が整然と配置され、他に石組みの井戸などがみつかった。

当日は、開始前に雨が降ったり止んだりのあいにくの天気で、見学者が少ないのではないかと危惧したが、地元住民の方々を中心に238名もの参加を得ることができた。

調査後に埋め戻した地点（青山グランド跡地）を集合場所とし、同時に各現場の航空写真を展示するパネルを設置した。13時から、渡邊所長の挨拶と上私部遺跡の概要説明を鈴木技師、有池遺跡の概要説明を合田主任が行った後、上私部遺跡に移動し、遺構説明を相良専門調査員が行った。次に、有池遺跡（その３）に移り、発掘調査の方法・手順などを、合田主任が実際の発掘作業を進める中で説明した。また、今回の現地公開の特徴となるが、希望者約20名を募り、遺構（鋤溝）の検出と掘り下げを体験していただいた。小学生も加わり、発掘体験に大変熱心に参加された。最後に有池遺跡（その２）で若林技師が遺構説明を行った。なお、有池遺跡（その３）の現場事務所の１階を遺物展示場とし、見学者に随時見学してもらった。　（木下保明）

太秦遺跡・奥山遺跡現地公開

第二京阪道路建設に伴い調査を行っているこれらの遺跡では、１月31日（土）に現地公開を開催した。まず太秦遺跡で説明を行い、その後見学者の方々を誘導し、奥山遺跡へと移動した。太秦遺跡では弥生時代中期と古墳時代の集落が、奥山遺跡では古墳時代後期の横穴式石室が公開された。当日は地元の方々を中心に約500人の見学者が訪れ、盛況な現地公開となった。　（小西絵美）

現地公開風景（奥山遺跡横穴式石室）

大坂城跡現地説明会

本調査は大阪府警察本部棟２期工事に伴うものである。今回の調査では、調査地をＬ字に伸びる豊臣大坂城の堀を検出した。この堀の底面は堀障子と呼ばれる田畑を畔状の障壁に形成したもので、石垣を持たず40～45°の角度を持つ堀である。大坂冬の陣後の講和条件により徳川方に埋め戻されているため、時期を限定できる大量の遺物が出土しており、コンテナ数で1000をはるかに超える量を取り上げている。埋め戻す際に工事を滞りなく行うため板や土嚢を道路状に用いた跡や、竹の籠（行李）に包まれて埋葬された人骨、数珠や漆器椀を胸に抱いた老齢の女性の人骨などが出土した。その他、大坂城の象徴である金箔瓦や年代を推定するうえで重要な意味を持つ「慶長拾三年」と記された祈祷札などに注目が集まった。一般公開は昨年の12月13日（土）に開催し、天候にも恵まれ、北は青森県、南は長崎県からも来られ、2350名の参加があった。

その後の調査で、調査地の北側から古代の谷を検出し、30点を越す絵馬や琴柱、斎串など祭祀に関わる遺物が出土した。これらは難波宮との関係を考えるうえで重要な意味を持つもので、今年の２月21日（土）に第２回目の一般公開を行う事となった。前回と同様に晴天に恵まれ、東京都や沖縄県からの見学者もあり、1339名の参加があった。

2000年の調査で西暦648年にあたる「戊申年」と記された紀年銘木簡が出土した谷（谷１）の続きを検出し、その東側から新たな谷（谷２）を検出した。谷２からは後期難波宮に関する遺物として、絵馬や斎串など古代祭祀の実態を示す遺物が出土している。前期難波宮に関する遺物として、漆付着土器が1500点を超えて出土している。ほかに３個の柱穴も検出し、前期難波宮の宮域推定ラインの北端とほぼ一致している。今後更なる検討が必要であるが、難波宮の北端を示すものとして可能性は高い。

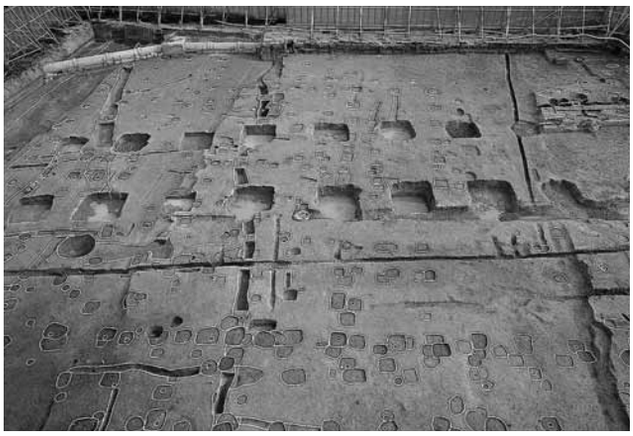
豊臣大坂城と難波宮に関わる重要な遺構が本調査地内から確認された。新聞等にも大きく報道され、関心の高さが窺える。両日ともに1000人を超える参加があり、事故等の心配がされたが多くの方の協力により無事に行うことが出来た。改めて感謝の意を記したい。　（島内洋二）

12月13日の現説風景（豊臣大坂城の堀）

南部調査事務所管内

南部事務所管内では調査地地元の府民を対象にした現地公開３回（10月11日藤井寺市船橋遺跡・11月６日八尾市八尾南遺跡・11月22日和泉市池上曽根遺跡、見学者総計240名）と、報道提供などを通じて広く府民を対象にした現地見学会（６月７日藤井寺市はざみ山遺跡約500名・２月21日八尾南遺跡約750名）を２回行った。

はざみ山遺跡は飛鳥時代の複数期の掘建柱建物群を対象にしたもので、掘建柱建物数は最終的に85棟に達した。とくに調査区南寄りでは区画溝と柵列を伴った四面庇をもつ大型掘建柱建物と倉庫群があり、円筒埴輪を転用した井戸、調査区北寄りでは新羅系の円面硯（下欄コラム参照）のほか多数の遺物が出土している。



はざみ山遺跡の掘立柱建物

八尾南遺跡の竪穴建物

八尾南遺跡は、庄内式並行期の方形周溝墓群を11月に現地公開し、その下層の弥生後期前半の集落面で平成16年２月にあらためて現地説明会を行った。弥生後期集落は窪地や川際、竪穴周囲の溝に土器が廃棄され、当時の生活面がほぼそのまま残っていた。竪穴建物は10～20m間隔で８棟あり、６棟の方形竪穴建物は、いずれも２本柱である。高さ約50㎝の周堤が良好に残り、井戸周りや小溝にも堤が認められたほか、西側低地に水田も確認されている。

船橋遺跡では飛鳥時代の工房址と目される炉跡や掘建柱建物、ガラス小玉の鋳型片を中心に公開した。

池上曽根遺跡では史跡指定地北西部分の環濠の確認と方形区画と呼ばれている一角（区画形成は弥生時代には遡らないことが分かった）の調査成果を中心とした。

（藤田憲司）

トピックス

<<< はざみ山遺跡出土の陶硯について >>>

南部調査事務所調査第二係では、昨年末まで藤井寺に所在するはざみ山遺跡の発掘調査を行った。

今回の調査で特に括目すべきものに、飛鳥時代の建物群と、それらに関連する各種の遺物がある。

写真に示す獣脚円面硯もその一つで、類例に乏しいばかりか、その淵源が韓半島や大陸にまで及ぶものと見なされるため、拙速を良しとして資料紹介を行う。

硯は竪穴建物内の竈内から出土した。全周の約６分の１が遺存し、これに脚から外堤と海の半分程度が付随する。脚は等間隔に配されたと推定して８本で、表面下半には形押し技法により複合鋸歯紋が陽出される。

類品は、福岡県荒木遺跡・御供田遺跡、奈良県法隆寺・藤原京左京六条三坊・石神遺跡、大阪府平尾遺跡で各１点、大阪府陶器南遺跡で２点出土している。

これら８点は、規格の大小、紋様描出法や製造法などに小異はあるが、形態的には概ね近似していることから、一定の規範があったと類推できる。この参考例として大阪府アカハゲ古墳出土硯が挙げられよう。

なお、この硯に近接して圏脚円面硯片も出土した。２点もの陶硯片を置き去ったこの屋の関係者が、文人的性格を帯びていたことを彷彿とさせる事象である。

ちなみに、今回出土の陶硯数は、上記２例に蹄脚円面硯を加え、整理途上の現時点で既に６点を数える。

この事象は、検出された飛鳥時代建物群総体が有する特質を推し量る上で、非常に示唆的といえよう。

（三好孝一）

獣脚円面硯

平成15年度文化財講座

開講以来31年目の平成15年度文化財講座は、会場の移転に伴ない前期・後期に分けて開催することになった。『古墳時代の鏡』・『古墳のはじまりを考える』というテーマでそれぞれ５人の研究者の方々にお話いただいた。三角縁神獣鏡・前方後円墳に象徴される古墳時代の成立は、皆さんの最も関心のあるテーマの１つである。

後期講座は303名の申込があり、抽選により213名の会員で実施。前期講座は、219名の会員で実施した結果、出席者延べ数920名（平均184名・出席率84%）、第１回～第５回の全講座に出席された方が113名。後期は出席者延べ数884名（平均177名・出席率83%）、全講座出席者102名であった。５回シリーズという事が皆さんにとって参加しやすい回数なのであろうか。全講座出席者がこれまでの倍になったことも含めこのように皆さんに参加していただけることは、担当冥利に尽きることであり、これからも頑張らなければと思う。

最後に、興味の尽きないご講演をいただいた先生方に深く感謝いたします。

ミニ講座の実施

ミニ講座の第２弾として、当センターと民家博の共催で日本民家集落博物館新春特別企画「伝統芸能　ミニ講座」を、民家博内の「カルチュアはっとり」を会場として４回シリーズで開催した。

第１回（２月15日）「農村歌舞伎つずうらうら―復活!! 37年ぶりの葛畑農村歌舞伎―」羽田　昇氏（フリーカメラマン・OFFICE羽田代表）。第２回（２月22日）「ハニワにみる藝能―考古学と民俗学の響き―」水野正好当センター理事長。第３回（２月29日）「農耕具と祭祀―豊中のことほぎ―」中村ひさ子氏（豊中市教育委員会）。第４回（３月７日）「椎葉神楽と民俗―落人伝説　椎葉の男は平家か源氏か―」永松　敦氏（椎葉民俗芸能博物館副館長）。

全国各地に残る農村歌舞伎の紹介、ハニワ等の遺物から語られた芸能の起源、椎葉村の歴史と神楽・面の紹介等、映像やハニワを見ながらの、40人収容の小さな会場ならではの趣きがあった。

第４回　永松　敦氏

第14回考古学国際交流研究会

平成15年度考古学国際交流研究会韓国研修として、平成15年10月27日（月）～11月２日（日）の７日間の日程で、扶余を皮切りに韓半島の西海岸を北上し、各地域の国立博物館、大学の研究室、史跡等を見学し、研究者と交流する事が出来た。研修日程は次のとおりである。

10月27日　関西空港出発
10月28日　木甫海洋遺物展示館、木甫大学博物館、長鼓山古墳、龍頭里古墳の見学。
10月29日　光州国立博物館、月桂道古墳群、全南大学博物館、全州国立博物館見学。
10月30日　益山弥勒寺、扶余国立博物館、陵山里古墳群、定林寺見学。
10月31日　公州山城、宋山里古墳群見学。
11月１日　水原華城、湖巌美術館見学。
11月２日　国立中央博物館見学後、帰国。

今回の研修で特に印象に残ったものを二つあげておきたい。一つは、全羅南道の墓制について学ぶことが出来たことである。栄三江流域では、３世紀から５世紀を中心に甕棺墓を墓制とする地域があるが、その後百済が南下してくるとともに、横穴式石室が導入され、初期の段階では、横穴式石室の中に、甕棺をおくという過渡的な形態が見られる。これと期を一にして、前方後円墳が出現することは、この栄三江流域の政治的動向を考える上で非常に興味深い。

また、益山弥勒寺では、戦前に日本が保存修築作業を行った石塔の復元工事に立ち会うことが出来た。この石塔は、朝鮮最古で最大の石塔と考えられているもので、1925年に倒壊していた石材を復元し、復元できないものは塔内に埋設しコンクリートで固めて保存措置を施していた。現在、復元作業は覆い屋の中で石材とコンクリートを分離する作業を行っている。かなり、手間と時間のかかる作業のようで、日帝時代の負の遺産であるように思われている向きもあるようだが、石材が散逸しなかったという点では効果的であったように思う。

整備工事が終了した後に、再度、彼の地を訪れてみたいと思いつつ韓国を後にした。　（森屋直樹）

国立中央博物館にて

郷土の文化財を見学する会

12月６日の第８回例会の詳細は下記に記しています。

第９回例会は平成16年１月10日（土）に尼崎市の尼崎城下の寺町や尼信博物館、金楽寺貝塚、猪名寺廃寺、田能遺跡等を訪れました。尼崎市立地域研究史料館の中村光夫氏に、尼崎の成り立ちを中心に解説していただきました。

第10回例会は平成16年２月８日（日）に大阪市の三津神社、道頓堀から高津神社、生玉神社をへて一心寺、四天王寺までを探索しました。大阪歴史博物館の八木滋氏には大坂城下の形成以降を中心に解説していただきました。

住友銅吹所跡にて

バスツアー吉備路を行く

郷土の文化財を見学する会第８回例会として、吉備地域の文化財探訪「バスツアー」が、12月６日（土）に実施されました。雨天との予報の中、参加者90名と引率４名が２階建てバス２台に分乗して大阪府立体育会館前を出発し、龍野西ＳＡで10分休憩を取り、車中では岡山到着までにビデオ３本（総社の文化財、石切場跡の発掘調査、佐保栗栖山砦跡）を上映しました。

作山古墳の近くで、講師の村上幸雄氏（総社市埋蔵文化財学習の館館長）と合流、駐車場の文化財の案内板の前で自作の図を示されながらの分かりやすい軽快なタッチの説明に参加者の皆さんは熱心に聞き入っていました。墳丘上で国分寺の優美な五重塔を望みながら、さらに説明を加えていただいた後、バスに乗車して江崎古墳へ向かいました。江崎古墳で浪形石の石棺を見て、徒歩で備中国分寺跡（昼食）、こうもり塚古墳、備中国分尼寺跡、岡山県立吉備路郷土館と巡りましたが、こうもり塚古墳では郷土館の方が石室の扉を開けて待機して下さいました。村上先生から石舞台古墳に匹敵する横穴式の巨大石室の中で、岡山井原産の浪形石の家形石棺等について説明をお聞きし、参加者は被葬者に思いを馳せていました。その後、バスで造山古墳、楯築墳丘墓、吉備津神社と巡りましたが、幸いにも心配した大した雨もなく楽しい１日となりました。（山岡平和）

民家ツアー・史跡ツアー

「最古の民家を巡る」と題した第１回民家ツアーを日本民家集落博物館と共同で企画し、（株）阪急交通社が主催した。平成15年11月23日勤労感謝の日、29名の参加者をえて快晴の中、兵庫県内にある柳田國男生家、古井家、平福町、箱木家をバスで訪ねた。

各地で講師の説明を聞き、見聞を広める事ができた。

古井家や箱木家のような中世の民家を見るのは、はじめてという参加者が多く、興味を抱かれた方が多かった。

また、日本民俗学の祖とも言うべき柳田國男の生家や平福の街並の風情に感銘を受けておられた。

同様に、池上曽根史跡公園協会との共同企画で「山陰地方に弥生文化遺跡を訪ねて」と題し、平成15年12月２日、３日の両日で１泊のバスツアーを（株）国際交流サービス主催で実施した。参加者は42名であった。

見学先は広島県立みよし風土記の丘、同県立歴史民俗資料館、吉田村鉄の歴史博物館、出雲大社、西谷墳墓群、今市大念寺古墳、荒神谷遺跡、加茂岩倉遺跡である。

引率の池上曽根史跡公園協会赤塚亨氏によると、見学先ではいずれも歓迎をうけ、文化財や歴史について詳細に解説していただき、参加された方々においては、各地の現地講師の解説に熱心に耳を傾け、山陰地方の古代文化に関する知識を吸収されていたということである。

正月の飾り －日本民家集落博物館を見学して－

昨年12月26日、仕事納めの日に日本民家集落博物館に年末のご挨拶にうかがった。職員の方々が正月を迎えるにあたっての準備にとりかかっておられた。博物館では毎年それぞれの民家がもとあった地域の正月飾りを継承して行っているのだそうだ。各地の古民家が博物館に移築されたのは昭和30年代のことだから、半世紀近く前になる。その頃は、私が育った兵庫県の姫路でも正月飾りが盛んであった。１月15日には農閑期の田圃に竹で高いヤグラを組み、家々から持ち寄った正月飾り等を取りつけ、焼くのが習慣であった。いわゆるトンド祭りである。子供達はこの祭りのために数日前から集団で準備を行い、それなりに気分が高揚したものであった。

柳田國男は1950年（昭25）に発表した「祭の木」という作品の中で次のように記している。山中共古という老学者の著述として、「江戸では大名屋敷の表門の門松に、それぞれの御国風を見せようというのが一種の流行で、ひどくこの飾りに力を入れ、（下略）」「いはゆる御役所が昔の武家を真似て、大きな門飾りをしたのはばかげていたが、この方は太い青竹を斜めにそいで、竹鎗の如く尖らせたもので、斯ういふのが今は全国の型のやうになっている。（中略）ああいふのはもう復興もしまいし、又やめた方がよっぽどよい。（下略）」正月飾りの変化と伝統的作法の消滅に対する柳田の想いがよく表わされている。　（福岡澄男）

弥生文化博物館　春の催しご案内

平成１６年春季特別展

弥生のころの北海道

４月17日（土）～６月20日（日）

豊かな資源に恵まれた北海道。弥生時代のころ、北海道では寒冷な気候のため稲作は伝わりませんでしたが、本州、大陸との交流のもと、縄文文化の伝統を受け継いだ文化が華開きました。狩猟、漁撈、採集を基盤とした独自の文化―続縄文文化―を紹介します。

クマの装飾が
施された土器
（苫小牧市/タプコプ遺跡）

■春季特別展考古学セミナー（全４回）

①４月25日（日）「石器からみた続縄文時代の生活」
　岡村道雄（奈良文化財研究所平城宮跡発掘調査部長）

②５月９日（日）「虫歯からみた続縄文人の食生態」
　大島直行（北海道伊達市教育委員会文化財課長）

③６月６日（日）「対談・続縄文時代を語る」
　佐々木高明（国立民族学博物館名誉教授）
　金関　恕（本館館長）

④６月13日（日）「続縄文文化への誘い」
　金関　恕／本館学芸員

■春季特別展体験学習　５月15日（土）

◆やよいミュージアムコンサート
　４／３（土）、５／30（日）、６／27（日）

詳しくは博物館までお問い合わせください（0725-46-2162）

近つ飛鳥博物館　春の催しのご案内

平成１６年度　春季特別展のお知らせ
開館10周年記念特別展示

「古墳から奈良時代墳墓へ

－古代律令国家の墓制－」

400年にわたりさかんに築造された古墳は、なぜ姿を消すのか。古墳にとってかわる墓とはどのようなものなのか。特別展では、奈良時代を中心とする時期の墳墓や墓誌、蔵骨器などを通して律令国家の形成過程を考えます。天平人の永遠の眠りに思いをはせていただければと思います。

期　　間：平成16年４月20日（火）～６月20日（日）
　　月曜休館（５月３日（月・祝）は開館、
　　５月６日（木）は休館）
開館時間：午前10時～午後５時（入館は午後４時半まで）
入 館 料：大人600円　高校生・大学生・65歳以上400円

☆歴史セミナー

○４月25日（日）
　本館館長　白石　太一郎
　「古墳時代の終末とその後」

○５月23日（日）
　奈良大学教授
　東野　治之
　「日本古代の墓誌」

○６月６日（日）
　富山大学教授
　黒崎　直
　「古代墳墓の火葬と土葬」

金銅威奈大村骨蔵器（国宝）
奈良県香芝市　707年
四天王寺所蔵

アクセス：近鉄長野線喜志駅下車、喜志駅より金剛バス
　　阪南ネオポリス行き終点下車、約600m
問合せ先：大阪府立近つ飛鳥博物館TEL0721-93-8321
　　http://www.mediajoy.com/chikatsu/

日本民家集落博物館　催しご案内（４月～７月）

◆ 囲炉裏に火を入れて
　＜4/1（木）～６/30(水)の火～土曜10：30～16：00＞

◆ 押し花作品展と押し花教室
　＜4/1（木）～5/16(日)、教室は４/４(日)・11(日)＞

◆ 解説ボランティアによる民家解説
　＜４月～５月の各日曜日　13：00～16：00＞

◆ 「梅の撮影会」写真展
　＜４/17（土）～４/25（日）＞

◆春のお茶会
　＜４/24（土）、４/25（日）10：30～15：30／有料＞

◆子どもアート＆クラフトまつり
　＜５/１（土）～５（祝）＞

◆子どもの日「懐かしの玩具プレゼント」
　＜５/５（祝）10：00～先着200名／幼小中生対象＞

◆故きを温ねて（豊中名所ウォーク／雨天決行／有料）
　＜５/30（日）　９：30～13：00／要申し込み＞

◆ 昔話と紙芝居に親しむ会
　＜６/５（土）　10：30～、13：30～＞

◆ 米蔵茶論－こめぐらサロン－
　＜６/12（土）　10：30～11：30＞

◆ 七夕飾り　＜６/26（土）～　７/７（水）＞

◆ 企画展（展示室「カルチュアはっとり」）
　－はかる－「どりょうこう」　＜4/14～5/14＞
　－いのる－「いのり・ねがい・おもう」＜5/26～６/26＞
　－とき－「江戸のこよみ」　＜７/７　～　８/７＞

上記の催しについて、詳しくは博物館へお問い合わせください。皆様のご来館をお待ちしています。

（TEL０６－６８６２－３１３７）